



UR 都市機構が子育て支援の取組み「コソダテUR」を開始 ～併せて総合情報サイトも立ち上げ～

UR 都市機構（独立行政法人都市再生機構）は、全国の団地を対象として、キッズルームの設置や保育施設の誘致など様々な子育て支援に関する取組みを、これまで以上に積極的に実施していくにあたり、下記のとおり、取組み名称を決定しました。

また、そのような取組みの一環として、周辺的环境や利便施設、地方自治体の制度などを総合的に情報発信するために、子育て支援に関する総合情報サイトを立ち上げることにしましたので、お知らせいたします。

記

1 概要

(1) 名称及びロゴ

(名称) コソダテUR (読み方: こそだてゆーあーる)

(ロゴ)



(2) 「コソダテUR」とは

子育てに適した一定の環境を備えた団地において、子育て支援のためのソフト、ハードに関する整備を総合的に行うとともに、様々な主体が連携して子育て支援を行う取組みを「コソダテUR」と言います。

- 例) ・集会所をキッズルームに改修（地域のNPO法人等が活用）
- ・空き住宅を活用して保育ママ（家庭的保育事業）の誘致

(3) 今回対象物件（詳細は別紙参照）

11 団地 (約 8,663 戸)

(4) 総合情報サイト「コソダテUR」の開設

URL <http://www.ur-net.go.jp/kosodate-net/kosodate/>

※同サイトのイメージ（別添参照）

※平成 23 年 9 月 3 日開始の「秋の部屋探しキャンペーン」と同時に、UR 都市機構のホームページ内に開設します。

2 コソダテURの目指すもの

UR都市機構は日本住宅公団発足以来、主にファミリー層を対象として賃貸住宅の供給を実施してきましたが、日本において急速に高齢化が進む中、UR賃貸住宅においても高齢化が進んでいる状況です。

しかしながら、UR賃貸住宅の多くは、建設当初のコンセプトから、本来、子育てに適した住環境を有しているため、子育て支援に対する取組みを強化することで、時代に即した新たな子育て世帯のニーズにも応えることが出来ます。

今回「コソダテUR」の対象団地の第一弾として、子育て支援に取り組んでいるUR賃貸住宅団地の中から、11団地（別紙）をご紹介します。

今後も対象団地の追加を行っていくとともに、更なる取組みの強化を実施し、住宅募集キャンペーンなどと連動して情報発信することにより、子育て世帯の皆様にご入居頂き、団地のミックスコミュニティを促進し、更なる団地の活性化を目指していきます。

お問い合わせは下記へお願いします。

本社 住宅経営部 ウェルフェア業務支援チーム

（電話）045-650-0590

本社 カスタマーコミュニケーション室 報道担当

（電話）045-650-0887

	団地名	所在	戸数	主な取組み等
1	芦花公園	世田谷区	511	・NPOによるキッズルームの運営 等
2	東雲キャナルコート CODAN	江東区	1,712	・住宅における保育ママ(家庭的保育事業)の実施 等
3	ハートアイランド新田 一番街	足立区	360	・子育て支援プラン住宅 ・住宅における保育ママ(家庭的保育事業)の実施 ・幼稚園送迎ステーション 等
4	ハートアイランド新田 四番街 ※事例紹介1	足立区	271	
5	八千代ゆりのき台 パークシティ	千葉県 八千代市	776	・集会所における子育て関連出張事業 等
6	サンラフレ百合ヶ丘	川崎市	1,080	・集会所における子育てサロンの実施 等
7	サンヴァリエ日吉 ※事例紹介2	横浜市	625	・住宅における保育ママ(家庭的保育事業)の実施
8	かわつる グリーンタウン松ヶ丘	埼玉県 鶴ヶ島市	570	・集会所をキッズスペースに改修 等
9	アーバンラフレ志賀	名古屋市	900	・集会所を活用した学童保育の実施 等
10	アルビス旭ヶ丘	大阪府 豊中市	1,276	・集会所における子育て支援事業(集いの広場事業)実施 等
11	アーベインルネス梅光園	福岡市	580	・キッズルームを活用した子育て支援サークルの開催 等

【事例紹介1】

ハートアイランド新田四番街（足立区）

- ・ 幼稚園送迎ステーション事業
- ・ 一時預かり



四番街には「キッズルーム」があります。本キッズルームには0～3歳までの子どもとその保護者の方に自由にお使いいただける親子サロンがあります(利用の際、記名が必要。)。先輩ママや同じくらいの子どもの持つママとの会話は心強いもの。キッズルームでの出会いをきっかけに地域の「子育てママの輪」が広がるとういんですね！また、同キッズルームでは、「一時預かり」(登録の上、利用料等が必要)を行い、お母さんの生活をサポートしています。23年4月から開始の「幼稚園送迎ステーション事業」では、提携した私立幼稚園の園バスがお子さんを送迎する際の前後の時間帯の預かり保育もスタートしました。

【事例紹介 2】

サンヴァリエ日吉（横浜市）

・ 保育ママ（家庭的保育事業）



平成22年の10月から、団地の一室に、グループ型保育ママ「おうち保育園ひよし」がオープンし、サンヴァリエ日吉の仲間入りをしました。毎日、団地の中を散歩したり、近くの公園まで出かけたり、子どもたちは毎日、ここで過ごす時間をとても楽しみにしているそう。同じ団地の馴染みのあるお部屋に預かってもらうというのは、子どもたちにとっても安心感がありますよね

【参考資料】「コソダテUR」ホームページのイメージ ※実際のものとは異なる場合がございます



URは「子育てしやすい住環境づくり」に取り組み、子育て世帯を応援しています。





『コソダテUR』とは

UR賃貸住宅には、豊かなみどり、見通しのよい公園、買い物施設、保育所・幼稚園・小児科等、子育てにふさわしい環境があります。これらの環境に加えて、子育てに配慮したプランや設備の設置、子育てサークルといったコミュニティ活動等の支援、子育てに必要な新たなサービスの誘導を行う取り組み等を『コソダテUR』と称し、子育てしやすい住環境づくりを様々なかたちで実現していきます。

子育て中のお母さん・お父さんに特にオススメする『コソダテUR』対象物件は以下のとおりです。

コソダテUR 対象物件	子育て支援施設等の 利便施設 ※1	自治体の 子育てに係る制度等 ※2	URにおける制度等 ※3	子育て世帯 ミモリ情報
<p>芦花公園 (世田谷区)</p>	<p>保 学 幸 小 中 医 買</p>		<p>敷金分割支払制度※</p>	<p>周辺には大きなスーパー等買い物施設があり、敷地の中には区立保育所があります。また、キッズルームではNPO法人が子育て世帯を対象に「一時預かり」や様々なイベントを開催しています。</p>

UR都市機構 子育て支援の取り組み

UR都市機構ホーム > 子育て支援の取り組み > 地方公共団体、法人等の事業者向け情報(施設をお探しの方)

団地の店舗(施設)で保育所などの子育て支援施設を運営される事業者の方を募集しています。

URビジネス・サポート

事業参加・土地活用 住宅用地 事業用地 店舗・事務所 社宅向けUR賃貸住宅

生活支援ビジネス 子育て支援施設 再開発ビル(保潔)



※ 子育て応援サイト

地方公共団体・法人等の
事業者向け情報(施設をお探しの方)

なぜURテナントは、子育て支援施設にいいのか、ご紹介します。

子育て支援事業の経営を支えるために、URができること。

UR都市機構では、以下の「子育て支援の取り組み」を実施しています。

団地内施設を活用し、保育所、放課後児童クラブ、つどいの広場、子育て相談窓口等を誘致しています。

地方公共団体、社会福祉法人、民間事業者の方々のほか、子育て支援の活動を目的としたNPO法人や個人事業者の方々への賃貸を実施しています。

UR都市機構では、子育て支援事業に対し、賃貸料の減額等の優遇制度をご用意しています。

子育て支援事業者への優遇制度

賃貸料 **50%OFF**

公共性・社会性の高い子育て支援事業者の方々には、一般商業施設の賃貸料(スケルトン貸し)に対して50%の減額を実施します。URテナントは、安定した事業運営を末永くサポートします。

チャレンジスペース活用で
最大6ヶ月の賃貸料 **0円**

一部対象物件については、内装工事等の準備期間はもちろん当初最大6ヶ月間賃貸料が無料になるチャレンジスペース割を併用できます。運営に不安がある場合も、無料になった6ヶ月分の賃貸料を開業・運営資金に充当することで初期負担を軽減できます。

内装工事の
初期負担を **分割**

内装工事等の初期投資費用を抑制したい事業者の方に対しては、内装工事等をUR都市機構が施工し、その費用を月々の賃貸料に組み込む制度がございます。

現在募集中・今後募集予定の子育て支援施設

各地域ごとにUR都市機構の団地内賃貸施設(URテナント)をご紹介します。地域名をクリックしさらに詳しい情報をご覧ください。



団地の店舗(施設)で保育所などの子育て支援施設を運営される事業者の方を募集しています。

URビジネス・サポート

事業参加・土地活用 住宅用地 事業用地 店舗・事務所 社宅向けUR賃貸住宅
生活支援ビジネス 子育て支援施設 再開発ビル(保留地)



✳️ 子育て応援サイト

子育て支援事業 事例集

子育て支援事業 事例集

神奈川地域支社 事例集

▶ 他の事例集へ

南永田そよかぜ学童クラブ

団地名:南永田団地

所在地:〒232-0075 神奈川県横浜市南区永田みなみ台2-1-203

事業主:南永田そよかぜ学童クラブ(横浜市補助事業) 指導員:渡辺 喜久代

URL: <http://soyokazegakudou.hp.infoseek.co.jp/>

割引制度の活用:子育て支援施設優遇制度(賃貸料減額)、チャレンジスペース制度(6ヶ月間賃貸料無料)

この団地で賃料支援がなければ、30年目の“そよかぜ”はなかった。

「昭和56年、南永田団地の集会所を借りてスタートした学童クラブですが、4度目の引っ越しに悩んでいました」と語る渡辺さん。放課後の子育てを、安全で環境のいい団地で続けていくには、横浜市の補助とURの賃料支援が必須だったと言います。



Q.放課後学童クラブの歩みを教えてください。

30年前から安心できる保育の場を求めてきました。

昭和53年、団地の共働き家族の小学生の放課後をどうするのか？ということが持ち上がり、関係父母が中心になって学童保育を始めたと言っています。最初は団地の集会所をお借りしていたのですが、行事で保育を中断されることが多いため、近くの地主さんの土地で施設を建てました。その後、平成13年に引っ越したビルは道路が目の前にあり、飛び出し事故の心配が絶えませんでした。

Q.URのテナントに決めたワケは？

団地内の安全な環境が、半額で借りられると知って。

子供たちを危険にさらすビルから4度目の引っ越しを考えていたとき、現在のこの店舗スペースを知りました。保護者会のメンバーが尋ねたら、URさんの制度で月々19万9,500円の家賃が半額で借りられて、しかも開業前の3ヶ月と開業後の6ヶ月間が賃料無料だとわかったのです。これが決定的でしたね。

Q.資金面で保育事業を支えているものは？

横浜市×UR×運営者の相乗効果で可能に。

平成18年4月から、横浜市において、放課後学童クラブの運営を補助する事業に変わったことにより、施設賃借料補助(上限月12万円)対象となりました。また、URさんも賃貸料を半額にする等の支援制度を開始してくれたので、賃貸料については、これらの制度でまかなえています。その他必要な運営費は、横浜市からの補助金や保護者からの保育料の他、バザーや模擬店の売上をあてています。

Q.運転資金や内装工事費の捻出は？

保護者会でこつこつ貯めた300万円を活用。

ここはチャレンジスペースという優遇制度の物件でしたから、開業前の3ヶ月間と入居後の6ヶ月間は完全に賃貸料がゼロでした。でも、何の設備もないので内装工事は保護者関係の会社にお願ひし、床の畳や下駄箱、ロッカーも自分たちの手で用意、300万円でなんとか開業できました。

Q.団地内で学童保育をするよさは？

地域の中で安全に育てられる意味は大きい。

大きな道路に出なくても公園が歩いてスグですし、鬼ごっこやドッジボールをしていても“いれてー！”って、年齢が上の子や下の子が自然に集

まってきます。老人会のパトロールの方々も立ち寄って話をしたり、1階のお店やスーパーの人たちも子供たちに必ず声かけをしてくれます。

Q.今後の学童保育に期待することは？

OBの子が補助に来てくれて、担い手が循環すること。

団地はミニ社会ですから、学童クラブを卒業したOBの学生や大学院生、あるいはその親御さんたちが、ふたたびこの補助やボランティアとして子供たちを育ててくれています。循環型社会の仕組みのように、担い手が次々と現われてくれることに期待したいですし、それが団地ならできると思います。



保護者がボランティアで作ってくださった、愛情のこもった下駄箱とロッカー。このOBの大学院生も手伝いに来ています。



みんなうれしいおやつ時間。人気のタコ焼きを自分で作る子もいて、共同生活の中で自主性や社会性が育まれていきます。



学童祭り(2月):これから入所を検討している保護者と子供を招いて一緒に遊び、学童クラブの雰囲気を知ってもらいます。



ヨコハマみなみ夏祭り(8月):ステージで合唱。フランクフルトと綿あめのお店も出しました。(永田台小学校のグラウンドにて)

【事業内容】

- 学童保育施設

【施設の特徴】

- 目的: 共働きの家庭や一人親の家庭の小学生を昼間預かる学童クラブ。放課後を安全に過ごし、日々の生活や遊びの中でルールを学び、地域の中で協調性・自主性・社会性を育む情操教育の場をめざす。
- 運営: 横浜市の補助を受け、団地自治会長、民生委員・児童委員等で構成された運営委員会が主体となって運営している。代表者: 常木敬司(自治会長)
- 学童数: 51名(小学1年生～小学6年生)永田台小・永田小・六ツ川小など近隣3校の学童が在籍。
- 正規職員: 指導員2名・補助職員4名・ボランティアは適時採用(通常6名体制で保育)
- 補助金: 基本補助額に加え、賃貸料加算(月12万円まで)、長時間開設加算(18時30分以降の開設)等を受給。
- 家賃: 99,750円(通常家賃199,500円の50%OFF)+共益費6,620円
- 内装工事費: 約300万円
- 施設面積: 88.45m²(約27坪)
- 入居年: 平成18年8月

【南永田団地データ】

管理戸数: 賃貸1,215戸 分譲1,035戸
 建物階数: 1～14階建
 住居形式: 1DK～3DK(1DK・1LDK・2DK・3DK)
 住戸面積: 32.97m²～61.32m²
 交通: 京浜急行線「弘明寺」駅バス約10分

■ テナント配置図



◀ 前のページへ戻る ▶ このページの先頭へ



団地の店舗(施設)で保育所などの子育て支援施設を運営される事業者の方を募集しています。

URビジネス・サポート

事業参加・土地活用 住宅用地 事業用地 店舗・事務所 社宅向けUR賃貸住宅
生活支援ビジネス 子育て支援施設 再開発ビル(保潔)



✿ 子育て応援サイト

子育て支援事業 事例集

子育て支援事業 事例集

▶ 他の事例集へ

千葉地域支社 事例集

花見川・子育てリラックス館

団地名:花見川団地

所在地:〒262-0046 千葉県千葉市花見川区花見川3-28-101

事業主:千葉市 運営団体:生活協同組合ちばコープ

URL:<http://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/kodomokatei/kosodate/riraakusukanannai.html>

http://chiba.coopnet.or.jp/support/kosodate_relax.php

割引制度の活用: 公的施設による賃貸料減額、内装工事費の賃料回収制度

子育てママの不安。 ここなら、みんなで話せますよ。

「リラックス館に来たばかりのお母さんは、「日本語が話せてよかった…」なんて言うんです」と加藤さん。泣いてばかりいる赤ちゃんが相手だから、普通に会話ができる交流の場にほっとするんですね。



Q.どのような施設ですか？

親子でのんびりゆったりつどえる場です。

朝10時から夕方4時まで、幼稚園に入園する前の0~3歳児と、そのお母さん、お父さん、そのご家族の方も一緒に利用してくれています。予約も参加費も不要です。好きな時間に立ち寄って、同じ子育てをしているママさんたちとおしゃべりをすれば、「うちの子だけかと思ってたら、よその子もおんなじなんだあ」と気づいて悩みが解消するんですね。スタッフも子育て経験があり、保育士や幼稚園・小中学校教諭などの資格を持っていますから安心です。地域の子育て情報があふれています。

Q.商店街で子育て支援をするメリットは？

団地の真ん中にあるから、利用してもらいやすいです。

この館の両隣は郵便局と銀行で、向かいには毎日の暮らしに欠かせないスーパーや商店街が広がっています。小さなお子さんを連れて休憩がてらに寄っていただける絶好の場所ですね。スーパーでお弁当や飲み物を買ってきて、みんなでワイワイにぎやかにランチタイムを楽しんでいます。団地に住むおばあちゃんが、人形を作って下さったり、利用者のパパが、子ども達の写真をたくさん撮って下さったり、いろんな輪が広がっています。

Q.乳幼児の子育て支援で大切なことは？

お母さん自身に先生になってもらうのが一番。

はじめての子育ては不安と悩みでいっぱいです。少しだけ先に体験したママたちを講師にした「オムツバイバイ講座」「幼稚園情報交換会」などの講座がはじまりました。月1回のパパ向けイベントも好評です。

Q.子育て支援をしていてよかったと思えることは？

二人目を産んでもいいかな…と聞いたとき。

この花見川団地は5,500戸以上もあり大規模ですから、引越してきたばかりで知り合いのいないお母さんや、外国人のママさんもいらっしゃいます。どこで買い物したらいいか、どの病院がいいかなど、口コミ情報の交換が盛んです。教えてもらうだけでなく、逆に教えてあげることでも自分に自信がついていき、育児の悩みや不安が軽くなり、「2人目を産んでもいいかな〜」そんな気持ちになる方も多いためです。それが私たちに一番うれしいですね。

Q.今後はどのような場所でありたいとお考えですか？

出会いとゆるやかな学びの場をめざして

ここに来たばかりのお母さん達は、「日本語が話せてよかった」なんて言うんですよ。来る日も来る日も、泣いてばかりいて何を伝えたいのかわからない赤ん坊だけを相手に暮らしていると、同じような思いで子育てをしている他のママたちとおしゃべりできることが嬉しいんですね。



玄関にある“葉っぱクラブ”のミニトマト。子供たちがトマトをなでながら、「おはよう」「またね」と声をかけています。



入り口に置かれた大きなクッションは何のため？子供たちが車にまたがって玄関に突っ込むのを防いでくれます。



80歳を越えた団地のおばあちゃんのボランティア作品。お礼にみんなで“寄せ書きの色紙”を贈り喜ばれました。



子育てママさんたちが集まって、食べながらおしゃべりを楽しむランチの時間です。

【事業内容】

- 乳幼児とその保護者のための子育て支援施設

【施設の特徴】

● 目的：千葉市「夢はぐくむ ちば子どもプラン」(千葉市次世代育成支援行動計画)の一環となる、子育てリラックス館運営事業。1.子育て親子の交流、集いの場、居場所の提供 2.子育てに関する相談、援助の実施 3.地域の子育て関連情報の提供 4.子育て及び子育て支援に関する講習の実施

● 運営：千葉市の公募で採用された、生活協同組合ちばコープが運営。コーディネーター：加藤雅代

● 利用者数：1日約40人・1ヵ月約1,000人。団地の乳幼児・就学前児とその保護者が多い。

● パート職員：子育てアドバイザー6名(2名ずつのローテーション勤務)

● 運営費：千葉市より全額拠出

● 施設面積：130.94m²(約40坪)

● 入居年：2005年12月

【花見川団地データ】

管理戸数：5761戸・1968年入居開始

住居形式：中層5階建て・高層11階建て等 2LK・3K・3DK等

住居専用面積：41.28～91.55m²

交 通：京成線「八千代台駅」下車 バス約10分

■ テナント配置図



子育てリラックス館は団地中央のスーパーや銀行・郵便局が集まる商店街の中にあり、子連れの母親が買い物ついでに立ち寄りやすい場所にある。



◀ 前のページへ戻る

▶ このページの先頭へ

独立行政法人都市再生機構 〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1 (横浜アイランドタワー5階～18階)

All Rights Reserved. Copyright (c) 2004--2010 Urban Renaissance Agency.



団地の店舗(施設)で保育所などの子育て支援施設を運営される事業者の方を募集しています。

URビジネス・サポート

事業参加・土地活用 住宅用地 事業用地 店舗・事務所 社宅向けUR賃貸住宅
生活支援ビジネス 子育て支援施設 再開発ビル(保潔)



✳ 子育て応援サイト

子育て支援事業 事例集

子育て支援事業 事例集

▶ 他の事例集へ

埼玉地域支社 事例集

障がい児放課後クラブ なかよし

団地名:朝霞浜崎団地

所在地:〒351-0023 埼玉県朝霞市朝志ヶ丘1-2 朝霞浜崎団地6-10

事業主:特定非営利活動法人 なかよしねっと 代表:豊喜 玲子

URL: http://www.geocities.jp/nakayoshi_club2004

割引制度の活用:子育て支援施設優遇制度(賃貸料減額)、2階住宅部分の施設への用途変更

“一生”、地域のみならず
仲よく暮らしていけるのが夢。

「放課後、障がいを持つわが子が一人家の中で過ごす、親とだけで暮らす。そんな毎日をなんとか変えたかった!」。10年前、そう決意して始めた保護者のみなさんたち。“なかよし”は、同じ思いを抱える障がい児の親が集い、地域や団地で共に生きていく力を育むクラブです。



Q.物件探しで一番苦労されたことは?

空き店舗がなく、あっても断られていました。

朝霞市と新座市の学校に通っている子を放課後にお預りするので、その近辺を保護者全員で探し続けました。でも、障がいを持った子どもたちが安全に出歩ける環境の空き店舗がなく、もしあっても不動産屋さんに事情を説明すると必ず断られていました。以前の建物は両脇が道路で、絶対に目が離せない環境だったにもかかわらず、不動産屋さんに平身低頭してやっと借りられたので、URさんの物件もダメかと思っていたんですよ。

Q.URはどんな対応を?

「どうぞ使ってください」の声がうれしくて!

今までの不動産屋さんは“貸してあげる”というスタンスで、本当に寂しい思いをしてきましたが、URさんは「どうぞ使ってください、賃料軽減の子育て支援制度が適用になりますから…」。その話を関係保護者13人と一緒に聞いたときは、うれしくてみんな泣いて喜びました。

Q.団地はという点が安心ですか?

交通事故の心配がなく、自然に社会参加へ。

クリーニング店や薬局などの並びがあるので、なかよしの前でクッキーなど焼き菓子の販売体験をして社会参加の一步を始めています。子どもたちの“やってみよう”という気持ちを後押ししてあげると、目がきらっとします。地域の人も買い物帰りにやさしく声をかけてくれて、うれしいです。

Q.団地をうまく活用されている点は?

集会所が目の前なので、イベント会場に。

ここからすぐ見える場所に団地の集会所があり、とっても感謝しています。わが子もそうなんですが、障がいを持った子どもは素早いですから、大きな道路に出ないで歩いて集会所でのクリスマス会や手作り教室などに行けるのは夢のようです。今では集会所のない活動は考えられませんね。

Q.地域の人はどんな応援をしてくれますか?

団地の方や学生がボランティアで参加。

夏祭りなど団地の催事に親子で参加することで、お店や自治会のみなさんとの交流が進んでいます。障がいを持った子どもの保育活動は、1対1のサポートが欠かせませんから、ボランティアの方は大変貴重な存在。地域の学生さんも補助に来てくれるおかげで、アウトドアや買い物

などの体験ができています。

Q.なかよしの未来を教えてください。

ここを卒所した長い人生の放課後に取り組みます。

今後は卒所したあとの子どもたちの居場所づくりに発展できるような活動を始めようとしています。ここにいる時間は、人生の中ではほんのわずかなもの。障がい児が自立し、楽しく社会に参加していけるよう、さまざまな余暇活動の実施や働く場所づくりをしていけたらいいなと思っています。



以前の施設はトイレが男女でひとつしかなく引越す原因にも。今度は車椅子の子どもが支度しやすいベッドを置きました。



蛍光灯は丈夫なガード付き。中学や高校の子が室内でおもいっきりボール遊びができたらいいなと考えて工夫しました。



施設の前でバザーをすると買い物に来た団地や地域の人が声をかけてくれて、知らず知らず仲よくなっていきます。



70人も集まった集会所でのクリスマス。歩いて数十メートルだから安心、体験学習やセミナーの会場に大活躍です。

【事業内容】

- 障がい児学童保育施設

【施設の特徴】

● 目的: 障がい児が放課後や週末および長期休暇において、一人あるいは家族とだけで過ごすのではなく異年齢の集団の中で互いに育てあい、社会性を身につけること。また、親同士のネットワークを築くことをめざしている。

● 運営: 市や県から補助金を受け、NPO法人なかよしねつが運営。代表者: 豊喜 玲子

● 学童数: 15名(小学1年生～高校3年生)朝霞市・新座市の特殊学級・養護学校に通う子どもたち。

● 正規職員: 指導員8名・ボランティアは適時採用(ほぼマンツーマンで保育)

● 補助金: 朝霞市(事業費補助金・職員処遇改善費・職員健康診断料補助金・施設賃借料補助金・ひとり親補助金)、新座市(事業費補助金・施設賃借料補助金・歳末福祉事業費)、各種補助金を受給。

● 賃貸料: 137,025円+共益費6,040円

● 敷金: 822,150円

● 内装工事費: 約390万円

● 施設面積: 119.05m²(約36坪)

● 入居年: 平成17年9月

【朝霞浜崎団地データ】

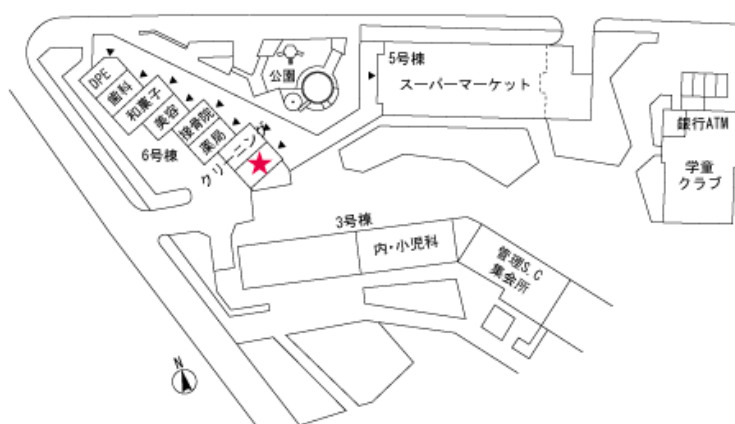
管理戸数: 976戸・平成2年管理開始

住居形式: SRC構造11階建て・1DK、2DK

住居専用面積: 31.33～43.29m²

交通: JR武蔵野線「北朝霞駅」下車 徒歩約5分

■ テナント配置図



◀ 前のページへ戻る

▶ このページの先頭へ

全国初 UR賃貸住宅を活用し 子育て・高齢者支援を展開 足立区とUR都市機構が連携 確認書を締結

本日、足立区とUR都市機構が「子育て支援・高齢者支援に関する確認書」を締結しました。
大規模開発による保育需要の増加、既存団地の高齢者世帯増加などの課題を抱える足立区とUR賃貸住宅を都市の福祉拠点として活用を図るUR都市機構が連携し、新田、大谷田エリアのUR賃貸住宅で、これまでの枠を超えた全国初の試みを含む、新たな子育て支援策、高齢者支援策を展開していきます。

●● 安心して子育てできる環境を ●●

子育て世帯が急増する足立区新田のUR賃貸住宅「ハートアイランド新田」をモデル地区に、全国初のキッズルームを活用した送迎ステーション、保育ママによるグループ保育など、子育て世帯が安心して暮らせるよう足立区とUR都市機構が協働でサポートします。

1 子育てママも安心 『キッズルーム(H22.12 予定)』がサポート

- ・親子交流・情報交換の場『親子ひろば』 一時保育のサービスも！
- ・『送迎ステーション (H23.4 予定)』周辺幼稚園と連携しバスで通園するお子さまを預かり保育
- ・『キッズルームアドバイザー』 地域の子育てをサポート

2 家庭的な雰囲気 保育ママが『グループ保育(H23.2 予定)』

- ・住宅部分最大4戸で保育ママがグループ保育
- ・0～2歳児のお子さまを1戸あたり6人～9人保育

3 放課後も安心 夜7時まで利用可能な『学童保育室(H23.4 予定)』を新設

- ・荒川土手に面した好環境の集会室を活用しお子さまを保育
- ・民設民営の学童保育室（定員50名程度）で夜7時まで利用可能



▲ハートアイランド新田四番街建物外観

●● 高齢者にも安心のサポート ●●

UR賃貸住宅「大谷田一丁目団地」をモデル地区に、高齢者等が安心して住みつけられるよう足立区とUR都市機構が連携しサポートします。

1 24時間365日対応の相談サービス(H22.12 予定) ※国のモデル事業を活用

- ・足立区が、地域のネットワークを活かし24時間365日対応の相談サービスを実施

2 『生活支援アドバイザー(H23.4以降予定)』が高齢者の身近でサポート

- ・UR都市機構が、高齢者の相談相手『生活支援アドバイザー』を配置

<この件の詳しいお問い合わせは>

足立区 都市建設部 企画調整課 電話(3880)5903

UR都市機構東日本支社住まいサポート業務部企画チーム 電話(5323)2602

UR都市機構東京都心支社業務第四部市街地整備第2チーム 電話(3805)6402

子育て支援策イメージ

足立区・UR・民間事業者等との協働による取り組み

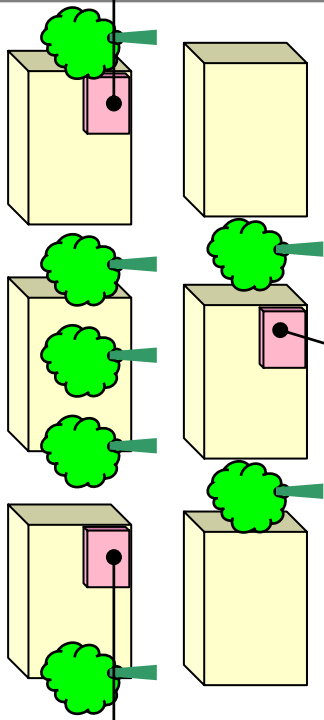
学童保育室

集会室を活用
学童保育室を新設



13

UR賃貸住宅「ハートアイランド新田」



グループ保育

住宅部分最大4戸を活用
保育ママがグループ保育



幼稚園

幼稚園

キッズルーム

『親子ひろば』
親子交流・情報交換の場
一時保育

『送迎ステーション』
周辺幼稚園と連携しバスで
通園するお子さまを預かり保育

幼稚園

幼稚園

